2021 年度 アスパラガス病害虫防除暦【ハウス作型】

安全･安心な農産物生産のために 防除･使用基準を厳守しましょう

JA中野市営農センター

散布日	散布回数・時期		散布薬剤(水 100ℓ当り)		使用時期	散布量(ℓ)	対象病害虫	注　意　事　項
／	1	立茎開始３日前	アミスター２０フロアブル	50ml	前日	200	茎枯病・斑点病・褐斑病	**茎枯病の多発圃場は、収穫打切後、全刈りを実施し、すぐに第１回目の薬剤を畝面全体に散布し、乾いてから 5 ㎝以上の盛り土後、芽の高さが２～５㎝ 程度のときに２回目の薬剤散布。その後 5 日以内に 3 回目の薬剤を丁寧に散布する。** ※アミスター20 フロアブルは、①展着剤は使用しない。②薬液が乾きにくい条件下(夕方･曇天時)では使用しない。③雨露等でアスパラガスがぬれている状態では使用しない。④薬剤耐性が生じやすいので連用しない
／	2	第１回散布後 ５日以内	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ベンレート水和剤	20ml 50g	前日	200	茎枯病・株腐病	
/	3	第２回散布後 ５日以内	展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） ダコニール１０００	20ml 100ml	前日	200	茎枯病・斑点病 褐斑病・疫病	
／	4	５月下旬	展着剤(アビオン E) モスピラン顆粒水溶剤 ベンレート水和剤	100ml 25g 50g	前日 前日	200	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ｱｻﾞﾐｳﾏ類 ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ 茎枯病・株腐病	
／	5	６月上中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) カスケード乳剤 コサイド 3000	20ml 25ml 50g	前日 前日	300	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ・ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ｱｻﾞﾐｳﾏ類・茎枯病 斑点病・褐斑病	
／	特別散布 疫病対策		展着剤（アビオン E） フォリオゴールド	100ml 100ml	前日	300	疫病	土壌病害（疫病）が心配される園地で株元散布する。
／	6	６月下旬	展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） コルト顆粒水和剤	20ml 25g	前日	300	ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ、ｶｽﾐｶﾒ類	病害の発生がある場合は、展着剤を除き、アミスター20 フロアブルを加える。
／	7	７月上中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ベネビアＯＤ シグナム WDG	20ml 25ml 66g	前日 前日	300	ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ・ｱｻﾞﾐｳﾏ類 茎枯病・斑点病・褐斑病	草勢維持のため状況により、薬剤散布と併せて７～8 月はアミノメリット特青 500 倍の葉面散布を行う。 （その場合展着剤不要）
／	8	７月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) コテツフロアブル コサイド 3000	20ml 50ml 50g	前日 前日	300	ﾊﾀﾞﾆ類・ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾖﾄｳﾑｼ ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ・ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ 茎枯病・斑点病・褐斑病	カスミカメ類の発生が多い場合は、ダントツ水溶剤（4,000 倍・前日まで・3 回以内）を加用する。
／	特別散布 疫病対策		展着剤（アビオン E） フォリオゴールド	100ml 100ml	前日	300	疫病	降雨の前に感染予防として株元にたっぷり散布する。
／	9	８月上中旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) ダントツ水溶剤 ベンレート水和剤	20ml 25g 50g	前日 前日	300	ｱﾌﾞﾗﾑｼ類・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ ｶﾒﾑｼ類・ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ 茎枯病・斑点病 褐斑病・株腐病	**ダニの発生が多い場合は、コロマイト乳剤(1000 倍・前日まで・2 回以内)を散布する。**
／	10	８月中下旬	展着剤（ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ） ディアナＳＣ	20ml 40ml	前日	300	ｱｻﾞﾐｳﾏ類・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ｼﾞｭｳｼﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ	斑点病が発生している場合は、ラリー水和剤(4000 倍・前日まで・2 回以内)を散布する。
「次年度の収量確保に向けて」9 月以降は薬剤散布と併せて PK ゴー（3,000 倍希釈）を葉面散布（展着剤必要）する。								
／	11	９月上中旬	アミスター20 フロアブル コテツフロアブル	50ml 50ml	前日 前日	300	茎枯病・斑点病・褐斑病 疫病・ﾊﾀﾞﾆ類・ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ ﾖﾄｳﾑｼ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ｼﾞｭｳﾎｼｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾑｼ	薬害回避のため展着剤は使用しない
／	12	９月中下旬	展着剤(ﾊｲﾃﾝﾊﾟﾜｰ) プレオフロアブル ベンレート水和剤	20ml 100ml 50g	前日 前日	300	ｵｵﾀﾊﾞｺｶﾞ・ﾊｽﾓﾝﾖﾄｳ ﾖﾄｳﾑｼ・ﾈｷﾞｱｻﾞﾐｳﾏ 茎枯病・株腐病	
／	13	１０月上中旬	展着剤（アビオン E） ベルクート水和剤	100ml 100g	収穫 7 日前	300	茎枯病・斑点病・褐斑病	薬剤持続性を高めるため、展着剤はアビオン E を加用する。 オオタバコガの発生が多い場合は、ディアナ SC(2,500 倍・前日まで・2 回以内）を加用する。

(注) 1. バーナーによるアスパラガスの残茎や土壌表面の焼却は茎枯病等の予防効果があり、毎年発生の多いほ場は実施する。
2. 春収穫期間中、害虫の発生が見られる場合は、モスピラン顆粒水溶剤、ウララ DF、アディオンフロアブルを散布する。
3. 雨の多い場合は散布間隔をつめる
4. 散布間隔があく場合（収穫打ち切りの早い園地等）や連続降雨後の定期防除の合間の防除に、コサイド 3000 の 2000 倍液を散布する。
5. 収穫打切後すぐビニールをはがさずに展葉するまで雨よけ(打切り後最低 1 カ月間被覆)をすることにより、茎枯病等の病気が軽減され散布回数の省力につながる。
6. 農家在庫で IC ボルドー66D がある場合は最終消毒に使用してもよい。但し PK ゴーは混用しない、メリット赤と混用する。
7. PK ゴーと薬剤を同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあるので、別の容器に溶かしてから散布する。

当防除暦の複製･コピーを禁止します